

4月1日と8日に「向日町競輪を考える」というテーマでシンポジウムを開催した
会場はいずれもキャンパスプラザ京都
いずれも25名程度の参加者があり熱心な討議が交わされた

1回目は競輪場場長の丹治良博さんにゲストとしてお出でいただき、向日町競輪場をとりまく状況などを聞き、質疑をさせていただいた。

主な内容は次の通り

←向日町競輪場の収支で平成2年の355億がピークで20年たった今は140億、60%ダウンとなってしまった。平成2年は単年度収支が26億円の黒字。平成10年から15年にかけて200億円を割り込み単年度赤字になったが、場外を多く開催するなどして16年度からは黒字とした。昨年は3200万円の赤字。頼みの場外は日程が上限となりこれ以上入らない。稼ぎどころがなくなってしまった。場外の開催日数は年間240日で73億円の売り上げで手数料が3億。京都府への繰り出しは10年間行っていなかったが公営競技の責務もあり、また昨年は府税収入が極端に落ち込んだので単年度は赤字だったが繰越金から8億円繰り入れた。残りは10億円。今年度は委託の見直しなどで1億円支出を抑え予算を組んでいるが、売り上げの落ち込みが急すぎて挽回できない。

→大きな収入減となっているもののここ5年は黒字を維持しよくこらえている。昨年の3千万は誤差の範囲。検討委ではこれを捉え「このまま赤字が続けば赤字が積み上がって繰越金を食いつぶしてつぶす金もなくなってしまうので今の内にやめておけ～」の議論がされたが、はじめにつぶすべきとの恣意的なものが感じられ、競輪場を必要としている、残したい、ためにどうするのかという立場に立っていない。まったく逆だ。収入を維持するか増やすために努力されていると思うがどのようにされているのか

←今来ていただいているお客さんを大事にし、確保する。入りづらい、来てもわかりにくいという声もあるので初心者教室で買い方教育をやっている。大津が廃止になったのでその客を取り込んでいけば何年かがんばれるのではないか

→ケイリンの仕組みが分かりづらい。F1とかG1とか言うがF1とかF2を本場開催すると赤字になるという。競輪場によってはそういうものをやりたくなく、場外とGだけやるというところがあるという。

←グレードレースをG、普通ケイリンをFと呼んでいる。向日町では年間58日開催、年に1回グレードレース4日間をやっていて残り54日÷3日=18回の普通開催を行っている。かつては場外をしていなかったのが本場だけの売り上げしかなく355億のときはすべて本場だけでの売り上げだった。今は139億の売り上げのうち本場分は19億だけとなってしまった。収入の構造が大きく変わってしまった。普通開催だけならやれば毎回赤字だ。義務的経費が決まっているので売り上げが足りない。普通開催を減らせば赤字も減る。

→ケイリンが衰退すると補助金が減るというのは困ったものだ。3月1日の京都新聞に向日町の廃止を知事に提出という記事があり、まるで廃止が決まったような記事に見えた。赤字が仕方なく、それを税金で穴埋めするというのは理解されない。売り上げを上げて府の会計に貢献したいというのが本筋だろう。

→向日町ケイリンのおかれている状況は他の競輪場でもそうなのか
←向日町は全国でも真ん中くらい。よそでも同じようなもの
→人を新たに呼ぶのにケイリン開催をイベントととらえ、車券販売の合間にアマのレースを挟むなど、今までにない発想にしたらどうか
←激辛商店街のみなさんといっしょに開催したことがある。人は来たが車券は売れなかった。買い方が分からないのか、関心がないのか時間がある人は携帯でゲームをしていた。車券プレゼントもした。当たっているかもしれないというのに、かみ合わなかった。
→全国40場ほどの競輪場を見てきたが、なかでも向日町ケイリンの施設は最低クラス。冬寒く夏暑い。場外車券をしっかりと売っていいこうという施設ではない。25～28分のインターバルで車券を売る全国共通のタイムテーブルの中で、アマのレースなどできるわけではない。落車でもあれば本番レースができない。びわこが廃止になった。近畿で残るは岸和田と奈良、和歌山だけになる。しかも阪急沿線には向日町だけ。残れる、残さないといけない。JKA直轄でやりたいと言う声もある。奇数偶数車券などやってないことをやればどうか。経費節約だけでは無理、そこへ行こうという快適な会場でなければいけない。必要な投資はすべきだ。どうしたら収入が増えて黒字になるのかという提案をしたらどうか
→向日市へは周辺環境整備という名目で毎年4千万円を支出している。収入が多いときはもっと多かった。向日市では迷惑料ととらえている。
←びわこは毎年赤字だったのでつぶす金もない。向日町はまだ繰越金があり、黒字。だから今の内につぶそうという。これでつぶれるとなるとよその競輪場もなだれをうたせよう。いったん、つぶせば二度と競輪場ができることはない。府がやめても施行権を向日市が引き取って継続すべき。生で見るレースの醍醐味をもっとアピールすべきだ。激辛を一回したくらいで客が増えるわけがない。何度かやらなければ効果はない。以前、妻を競輪場に連れてきたが汚いのでもうこないと言っていた。
→私の娘も平安賞に連れてきたことがあったが、怖かったと言っていた
→淀競馬場はとてもきれい。レディースルームくらい作るべき。選手とのサイン会や握手会くらいやっているのか
←すでにやっています
→140億の売り上げをこれ以上減らさなければ継続できるのではないか
←われわれ現場もなくなしたくないと思いでやっている。このようなシンポに集まっている方は応援していただいていると思えありがたい。退職金の問題とか施設の補修とかで10億くらいの資金は必要。
ここで所長退席 ありがとうございます。
→ケイリン行ったことないひと多い。自転車ブームといっても雑誌にケイリンのことなど載っていない。本場開催分19億を買いにきている人は高齢者多い。年金世代。
→今の年金と違って、65歳以上の年金受給者は40万も50万ももらっている。その人たちが遊ぶ場所としてケイリンは必要。あと10年くらいその人たちが持つのではないか。何でここまで衰退したか、配当原資の75%は仕方ないにせよ、売り上げの3.2%をJKAなどに持って行かれるのが問題。利益から取られるべき。10年前の法律がしばっている。

このままでは新聞にも載ったがあと5年くらいもすれば競輪場の半分が赤字に転落する。法律を改正すべきだ。

2回目はメインゲストに野田隆喜向日市市議員、近畿競技会の行安政樹さんにお出でいただき向日市にとって向日町競輪場とはどういうものなのか、存続するには民間委託はどうかをテーマに議論を行った

主な質疑は以下の通り

→民間包括委託は岸和田以下富山まで全国の12場で行われている。警備や清掃などの部分委託ならほぼすべての競輪場で行われている。別紙資料参照。

→車券を発売するシステムで委託できる業者が決まるようだ。向日町はomronで全国で4場にしか採用されていない。46場の競輪場の56%に日本トーター(株)の車券システムが導入されていて、委託もトーターに行われている。委託するということはシステムもそれに変更するようだ。

→向日町でも3年ほど前に委託について議論されたが、メリットないので委託には至らなかった。と聞いている。どんな議論がされたのかは資料請求してみないと分からない。

→検討委員会の議事録には「施行者の対応でできるものは限りある」と支出を抑えることばかり。どこをどうすれば収入が上がるのか、マーケティングに視点が欠けている。民間の経営のプロに何年か来てもらえばできていけるのではないか。

→現場の声を聞いて上げていくシステムはあるのか

→従事員組合としては一番現場を知っているものとしていろいろと意見は述べている。採用されたことはない。ここにきてようやくそういう場が設けられるようになった。よそでは外部の識者などと常に意見交換できる場を作っている

→従事員は15年前に700人いたものが今年は66人。前にはマークカードがなかったので人手も要った。システムの導入も一番遅かった。3連単もそう。人手がないので自分の仕事でないものもしている。本場開催のときは全員が出勤する。場外はその規模によって出勤人数が異なる。委託する目的は従事員にかかる経費を落とすことにあるが、すでに落ちているので委託するメリットがないのではないか。委託すれば施行者雇用から委託先雇用になることで労務コストさらに下がる。

→地元のケイリン選手も売り上げにつながるなら、使ってくださいと言っているのに使えてない。

→企画立案を競技会からもしているが費用がかかるなら却下ということで何も採用されない

→選手会も自転車教室や競輪場周りの清掃活動をしている。ファンサービスについて何でもしますとも言っているが、何もでてこない。

→競輪場事務所には府の職員が何人働いているのか。前回の資料に13名とあった。包括委託すればこれももっと減るだろう。

→競輪場の特別会計に府の職員の給料が含まれているのはおかしいのではないか。

→特会から払うか、一般会計から払うかは財源の問題であって、一般会計から払ってしま

うと収支のバランスが分からなくなってしまう。

→従事員は京都府の臨時雇用者として働いている。月給制で

→府の職員は管理のプロであって営業のプロではない。

→府の職員の中でも営業企画に長けている方がおられるだろうから、そういう人に来てもらったらどうか。よその競輪場で入場者がもっと少なくて売り上げの多いところもある

→H16年度からそれまでの赤字から黒字に転換したが、そのときの所長はいろいろな企画を上げ、どんどん実施された。府の職員であつてもやればできると思う。

→向日町競輪が地元の基幹産業になっていないことに問題があるように思える。もともと公営競技には明暗がある。4千万円の収入は向日市にとって非常に少ない。ないと町がつぶれるということはない。以前売り上げがもっとあったころはもっととれという議論もあったが今はない。弥彦は村を挙げて取り組んでいる。松坂は宿舎を開放している。向日町は地域に何もしていない。府の競輪場だから向日市からは何もできない。そういうところも問題かも。

→向日町が競輪場でなくなったら向日市にとって4千万と従事員の雇用、場内の飲食店、周辺の酒屋が一部影響がある。他には

→ガードマン、売店の職員、清掃、機械の補修をしている人々、放送関係、いろいろ影響はあるだろう。しかし、臨時の雇用が多く月収でとらえられないのが問題。

→以前、施設改善競輪というのがあった。施設は何もよくならなかったが

→向日市の飲み屋で競輪残しましょうと言ったら「そうだ」というのは10人に一人くらいではないか

→4千万はどこに行っている。

→環境整備金という名目で地区の連合会に落ちている。一番多いときは9千万あったらしい。整備金になる前はもっと多く、向日市の一般会計に入っていた。そのときならもっと影響があった。今は経済効果というものは数字にならないくらいではないか。

→このあと、ご意見や討議内容をまとめ、HPなどにアップし、こうした議論を行ったとする一方で、17日から始まる向日市市長選挙の候補者にも向日町競輪存続に賛成か反対かを聞いてみたいと考えています。2週間にわたり参加いただいたみなさん、どうもご苦労様でした。